



(式典)



創立30周年記念式典 記念行事行われる

講演会
久山康氏（関西学院院長・
理事長）が講演
愛について語る

本学の創立三十周年記念式典並びに祝賀会が昨年の四月九日午後三時から本短大ホールにおいて、来賓の方々と、父母、同窓生、教職員、学生、約二百名の方々により厳粛の内にも盛大に挙行された。引きつづき、祝賀会が催され、当人は、各会の代表の方々から祝詞を賜り、三十年の節目に相応しい意義深い記念式典と楽しい祝宴のひとときが持たれた。又、記念行事の一環として、講演会、演奏会等が行われた。

尚、大城学長は一九八六年十月一九八七年九月までの間、前亀川栄一理事長の後任として理事長を兼務してきたが、一九八七年九月の理事会において正式に第七代理事長として選出され、理事長・学長を兼務することになった。

新理事紹介
理事長 大城 実（本短大学長）

「日本語を大切に：」
前田伊都子氏（インディアナ州立大学講師）が講演
沖縄キリスト教短期大学の創設期に約十年間にわたり教鞭を取った前田伊都子インディアナ州立大学講師を迎えての講演会、「アメリカの学生生活」が、十八日午後六時半から沖縄タイムスホールで一般講演を開いた。

久山氏は「世界的時代における人間形成」と題し、二十四日午後六時半から沖縄タイムスホールで一般講演を開いた。

前田先生は日本で三千四年、北南米で三十五年間生活し、四つの違った文化圏で育ったと前置きし、久山氏は「戦争という痛ましい経験を踏まえ日本はよみがえった。世界で一、二位を争うほどの経済力、繁榮を表面的に喜ぶのではなく、私たちは内面的なところで戦闘で亡くなったりたたちのことも忘れてはならない」と前置き。

「人間同士の関係というものは



在校生や卒業生が大勢詰めかけた特別講演会=タイムスホール

「室内樂の夕べ」
講演会
室内樂の夕べ
聴衆者を魅了！
—チエンバー・オーケストラ—
指揮に真栄城隆司氏
(保育科講師)

また、「日本は豊かになり、物が豊富になったと言われるが、自立心がない。いつも他人を気にする。その半面、特に東南アジアに対する日本は世界のコンピューターの国、金持ちの国というおこりがある」と指摘し、「國が富めば富むほどへりくだる國が、神の祝福する國。学問も同じで、すればするほど謙そんすべきだ。みなさんには、自分の足で立ち、自分の頭で考え、自分で責任を取れるような学問をする人間になつてほしい」と話した。

また、特別講演会を二十日午後六時からタイムスホールで「海外における日系人を通して見た女性の生き方」と題して講演。自らの経験を通じて語ることばに聴衆者

本語を尊敬しないということは、自分自身をも尊敬しない国民ということだ」と批判した。

前田先生は、キリ短開学の一年から約十年間、本短大の基礎づくりに貢献・教育面や実務面の内容整備に尽力し、その後、ラテンアメリカ、米国などで教育、伝道活動をしてきた。現在、インディアナ州立大学で日本語、日本文化を教えている。

△退職（一九八七年五月三十一日付）知花繁行（事務局長）
（一九八七年九月三十日付）
松田定雄（一般教育教授）
△昇格（一九八七年十月一日付）
△山原憲治（企画課長→事務局長）
ASSUMING ANOTHER SELF : YEATS'S
“THE MASK”
Gene Van Troyer (英語科非常勤講師)
「紀要論集」をご希望の方は紀要委員会まで。

△人 事△
▽退職（一九八七年五月三十一日付）知花繁行（事務局長）
（一九八七年九月三十日付）
松田定雄（一般教育教授）
△昇格（一九八七年十月一日付）
△山原憲治（企画課長→事務局長）
ASSUMING ANOTHER SELF : YEATS'S
“THE MASK”
Gene Van Troyer (英語科非常勤講師)
「紀要論集」をご希望の方は紀要委員会まで。

関する研究（一）
—アメリカにおけるヘッド・スター・プログラムを中心にして—
喜友名 静子
企業の顧客、従業員、株主への貢献についての「私論」
伊志嶺 博志
「沖縄図書館史研究」—漢那憲治
沖縄における子どもの遊びに関する一考察（二）
戦後沖縄の図書館復興の歩み
山城 真紀子
人格性についての関係学的研究（二）
沖縄図書館史研究一 漢那憲治
沖縄における子どもの遊びに関する一考察（二）
伊志嶺 博志
古典的な色合いでイラストされた表紙がユニークで、イラストされた漫画は「社会文化」をつた
おり、漫画は「社会文化」をつた
つかがえる。
本書は十一章で構成され、漫画の起源（歴史）から、漫画の定義、読者との言語と思考、今後の読者に対するコミュニケーションなどを論じている。
本書は保育科の選択科目で週一回、九十分を一年にわたり実施する。手話などの技術習得のほか、聴覚障害者教育の方向と課題などの理論的内容も予定されている。
手話は、昨年の固体・かりゆし大会で学生が手話コンバニオンとして参加したのを機に学内でも関心が高まった。「どの人とも共に育ち合う」福祉保育の原点に立つて障害者とのつながりを持ち、豊かな人間性を身につけ、高度難聴者に対するコミュニケーションである手話、口話（読み唇）、指文字を獲得することにより質の高い保育を養成するのが目的。

「漫画の文化記号論」
—弘文堂・一九八七年一月
学内著作活動紹介
大城宣武著

△人 事△
▽退職（一九八七年五月三十一日付）知花繁行（事務局長）
（一九八七年九月三十日付）
松田定雄（一般教育教授）
△昇格（一九八七年十月一日付）
△山原憲治（企画課長→事務局長）
ASSUMING ANOTHER SELF : YEATS'S
“THE MASK”
Gene Van Troyer (英語科非常勤講師)
「紀要論集」をご希望の方は紀要委員会まで。

関する研究（一）
—アメリカにおけるヘッド・スター・プログラムを中心にして—
喜友名 静子
企業の顧客、従業員、株主への貢献についての「私論」
伊志嶺 博志
「沖縄図書館史研究」—漢那憲治
沖縄における子どもの遊びに関する一考察（二）
伊志嶺 博志
古典的な色合いでイラストされた表紙がユニークで、イラストされた漫画は「社会文化」をつた
おり、漫画は「社会文化」をつた
つかがえる。
本書は十一章で構成され、漫画の起源（歴史）から、漫画の定義、読者との言語と思考、今後の読者に対するコミュニケーションなどを論じている。
本書は保育科の選択科目で週一回、九十分を一年にわたり実施する。手話などの技術習得のほか、聴覚障害者教育の方向と課題などの理

論的内容も予定されている。
手話は、昨年の固体・かりゆし大会で学生が手話コンバニオンとして参加したのを機に学内でも関心が高まった。「どの人とも共に育ち合う」福祉保育の原点に立つて障害者とのつながりを持ち、豊かな人間性を身につけ、高度難聴者に対するコミュニケーションである手話、口話（読み唇）、指文字を獲得することにより質の高い保育を養成するのが目的。

本書は十一章で構成され、漫画の起源（歴史）から、漫画の定義、読者との言語と思考、今後の読者に対するコミュニケーションなどを論じている。
本書は保育科の選択科目で週一回、九十分を一年にわたり実施する。手話などの技術習得のほか、聴覚障害者教育の方向と課題などの理

論的内容も予定されている。
手話は、昨年の固体・かりゆし大会で学生が手話コンバニオンとして参加したのを機に学内でも関心が高まった。「どの人とも共に育ち合う」福祉保育の原点に立つて障害者とのつながりを持ち、豊かな人間性を身につけ、高度難聴者に対するコミュニケーションである手話、口話（読み唇）、指文字を獲得することにより質の高い保育を養成するのが目的。

本書は十一章で構成され、漫画の起源（歴史）から、漫画の定義、読者との言語と思考、今後の読者に対するコミュニケーションなどを論じている。
本書は保育科の選択科目で週一回、九十分を一年にわたり実施する。手話などの技術習得のほか、聴覚障害者教育の方向と課題などの理

論的内容も予定されている。
手話は、昨年の固体・かりゆし大会で学生が手話コンバニオンとして参加したのを機に学内でも関心が高まった。「どの人とも共に育ち合う」福祉保育の原点に立つて障害者とのつながりを持ち、豊かな人間性を身につけ、高度難聴者に対するコミュニケーションである手話、口話（読み唇）、指文字を獲得することにより質の高い保育を養成のが

く目的。

本書は十一章で構成され、漫画の起源（歴史）から、漫画の定義、読者との言語と思考、今後の読者に対するコミュニケーションなどを論じている。
本書は保育科の選択科目で週一回、九十分を一年にわたり実施する。手話などの技術習得のほか、聴覚障害者教育の方向と課題などの理

論的内容も予定されている。
手話は、昨年の固体・かりゆし大会で学生が手話コンバニオンとして参加したのを機に学内でも関心が高まった。「どの人とも共に育ち合う」福祉保育の原点に立つて障害者とのつながりを持ち、豊かな人間性を身につけ、高度難聴者に対するコミュニケーションである手話、口話（読み唇）、指文字を獲得することにより質の高い保育を養成のが

第二次一坪獻金感謝報告（1987年1月～1987年12月）

このたびは第二次一坪献金運動に多大のご協力を賜わり、まことにありがとうございました。深く感謝申し上げます。

各界各位の善意の方々が、本短大の運動に关心をお寄せになり、

吉田吉郎・吉田洋介・木下正輝・近藤洋一郎各議員より賛成の意を表明していただき、ご賛賀の実をお示し下さいますことは、本短大にとりまして、大きな支えでございます。理事、教授会、職員一同ますます奮励して、所期の目的達成に邁進いたす決意でございます。

つきましては、第二次一坪献金運動の目標額（2億円）には程遠い状況ですが、お蔭さまで、去る12月末日現在で32%に到達することができました。

しかし、新キャンパス完成までには、まだまだ多額の資金を必要としますので、これからも募金運動を継続していかなければなりません。

今後とも一層のご指導、ご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

学校法人沖縄キリスト教学院理事長
沖縄キリスト教短期大学学長
大城 実

企画課長

企画課長 新垣

第二次一坪献金運動にご協力下さい、深く感謝申し上げます。
さて、私は一昨年の十一月中旬から募金の仕事をしておりますが、募金活動の仕事を専門に担当してみると、私の過去三十年間のサラリーマン生活を振り返ってみても、これほど難しく、厳しい仕事はかつてなかったように思います。一日中、金のなる木を探し求めて東奔西走しなければならない訳でして、実を結ぶのはいかばかりかと申しますと、なかなかどうして、おいそれとはまいりません。
しかし、西原町への早期移転を前提に考えるならば、何をさておいても、自生財源の充実を計り、定員増・学科増に備えなければなりません。

したたかさとしつこさであります。二点目は、礼儀をわきまえて行動することと、相手に対する気配りをするのを忘れてはなりません。時には、なにがなんでも目的を達成しなければならないといううまいからくる強引さを抑えながら、ひと呼吸おいて、相手の事情をよく聞いて真意を汲み取らなければならぬ姿勢も必要かと思います。そこいらの兼合いと手綱さばきは、想像を絶するところであります。よほど、プロ意識に徹していなければなかなか難しいことです。

皆様方はご存知とは思いますが、三枝の礼という言葉があります。このことは、私が申し上げるまでもなくよく知られている言葉であります。私も学校あるいは企業等を理事の方々と一緒に訪問する際は、常にこの言葉を念頭において行動しているつもりであります。従って、我々の仕事は、礼に始まり、礼に終ると言つても、言い聞かれてはなりません。

ます。すなわち、五項目の中の一つとして、単に呼びかけだけに終らざないよう、そく実行に移したものであります。世の多くの一流企業は、このようなことは、ごく基本的なこととして、実施されたことは申すまでもありません。

幸いにして、我がキリ短もおればせながら、俄かに学内の諸会議において、教職員の中から、経費節減にまつわる問題が多少なりともチラホラ聞えてきたということは、非常に喜ばしいことであります。経費節減は言うは易しで、いざ実行となりますと、なかなか難しいことだと思います。全教職員の皆様方がその気になつて、一 致協力しなければ目標達成もおぼつかないことでしょう。

そこで、私なりに経費節減について、少しばかり述べてみたいと思ひます。

にしても、印刷ミスとか書き損じたら、メモ帳にするとか、あい紙にするとか、いろいろと創意工夫して利用できると思います。また、水道の栓からの漏れの際は、パキンを取り替えるとか、トイレを使用した後、水槽のレバーを下忘れのために、大量流水の場面をたまたま見掛けます。このようない場合も各自で気をつけるとか、使用していない際の電灯を消灯するとか、県内外を問わず、もっと電話の効果的な使用方を計るとか、(学校にとって、無益な出張は極力さけるようにする)六〇〇余人の学生数程度の規模で、はたして各部署、研究室にOA化を導入したこと、が適切であったかどうか、(効率的な利用方がなされているか、各人の操作にロクスタイルはなかどうか、収支のバランス状態の健全性等をみるため、経営診断が必要かと思ひます)あるいは、

つながることではないでしようか。
なんだ、こやつ、だいそれたことを言つて、お叱りを受けるかも知れませんが、本短大は、ご存知のとおり、理事の構成メンバーをみましてもお解りのように、オーナー理事の学校ではありません。そういう意味では、全教職員の皆様方が、理事の立場にたって現状を考え、一円たりともムダのないよう、公金を使ついたくなれば、募金担当者として、さらに意氣が揚がるばかりでなく、非常に意義深い価値のある一円玉になることでしょう。

「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」。
「夏」、それにモーツアルトの
「ルディー」の「四季」から「春」と
「秋」で組まれていたが、庄菴はヴィヴァ
ーナの「四季」を「春」と「秋」に替えた。
旋律に始まり、劇的な嵐の情景まで
で、また「アイネ」は優美な第
一楽章からさわやかな興奮をかき
たてる第四楽章まで演奏し、喝采
いを浴びた。

を仰ぐことは可能であります。たまたま、カリ短と全く縁もゆかりもない企業も往々にしてあります。このような企業から、貴重なお話をいただくために訪問しておりますが、企業サイドからすると、非常に迷惑千万であります。それでも目標額を達成するまでは、根気強く頑張りズムに徹しなければなりません。

特に募金活動をしていく上に、最低条件として、少なくとも二点ほどあげられるかと思思います。一

ぎではありません。私が申し上げたいことは、このように数多くの方々から心のこもったご献金、ご寄付をおよせいただいた財源であります。一円たりともムダのないよう、大切に有効に使っていただきたいと考えます。

ります鉛筆、ボールペン、白紙等を例にとって考えてみましょう。現在から30年以前を思い浮かべてみましたら、お解りとは思いますが、鉛筆一本の使用方にしても、長いキャップを利用して、僅かう二センチメートルまで使用したこと思い起すことでしよう。ボールペンにしても、現在はインクがなくなったら、ストレートに鹿児行きであります。が、インクがなくなったジクを集め、製造元に持っていくなら、新しいボールペンと

させるとか、（但し、火急で二工以上の見積書が取れない場合は前年度と比較対照して見積額を調整する）等、列挙すると、まださだ沢山ありますが、要するに、我々の職場である学校にあるものは、各家庭にあるもののように、大切にしていく心構えが必要ではないかと思います。これまでのよう使い捨ての時代はもう既に過去のことになります。これからは、何かに古い備品あるいは破損した機器備品等でも修理して使っていく